



森林ふれあい情報

平成18年5月
第6号

中部森林管理局木曽森林環境保全ふれあいセンター
〒399-0001 長野県木曽郡木曽町福島5471-1
TEL:0264(22)2122 FAX:0264(21)3151
E-mail:kiso-fureai@rinya.maff.go.jp

地元のNPOが歩道整備活動を実施

4月に入って雪が降るといふ前日の天気が嘘のように晴れわたった4月22日、城山の整備活動を行っている「史跡の森・城山風景林を愛する会」（城山史跡の森倶楽部を構成する主要団体の一つ）による歩道整備が、地元有志及び当センター関係者ら39名により実施されました。

今回の作業では、城山林道から興禅寺山尾根に至る歩道整備を中心に、冬の間傷んだ常設コースの修理及びゴミ拾いを行うとともに「城山史跡の森」パンフレットのコース案内図に記載されている「お奨めコースのポイント標（番号標柱）」の設置を行いました。

また、作業の途中、ハコネサンショウウオと思われる卵も見つかり、改めて城山は自然が豊かな場所であることを再認識するとともに、この自然を守らなければならないとの思いを新たにしました。

今回は、盛りたくさんの整備内容でしたが、大勢の人の参加により、予定された時間前にケガもなく全ての作業を終了することができました。

NPO緑の挑戦者が森林整備を実施

4月15日、名古屋市の特定非営利活動法人（NPO法人）緑の挑戦者による本年度の「森造り協力事業」が始まり、愛知県や三重県の46名が木曽川源流部の木曽町福島の町有林の森林整備を実施しました。

同NPOは水源地の森の育成を通じて環境保護の大切さを訴えようと、一昨年から木曽川流域の住民や企業、団体の参加を募り、こうした作業を行っています。

参加者は、当センター、木曽福島林業振興会の指導のもとカラマツ林の間伐や雑木の伐採を行いました。

名古屋市内の会社に勤めるある参加者は、家族5人でこの活動に参加。「大切な水源の保護に少しでもお役に立てれば」と作業に汗を流しました。

同NPOの伊藤健一理事長は、新聞社のインタビューに答え「流域住民のほか水道、漁業関係など幅広い分野からの参加が得られるようになった。今後は作業の技術向上も図りたい」と話しました。

同NPOでは10月まで木曽町や木祖村での作業を

計画しており、当センターとしても地元町村などと協力してこの活動を支援していく予定です。



作業の説明を熱心に聞く参加者たち(4/22)



作業の途中で見つかったサンショウウオの卵(4/22)



森林整備に参加した緑の挑戦者のメンバー(4/15)

早春の城山史跡の森の魅力を紹介

4月17日、当センター、NPO城山史跡の森倶楽部、木曾町が合同で、春のイベントに先立ち城山史跡の森の巡視を実施しました。

標高1,000mを超える城山では新緑の季節を迎えるには早く、目に入ってくる緑はヒノキやサワラなどの針葉樹とソヨゴなどの数少ない常緑広葉樹だけです。逆にしばらくすると緑のカーテンに隠れてしまう中央アルプス、御岳の眺望が目を楽しませてくれました。

地面に目を向けると、バイカオウレンやニッコウネコノメソウなどが可憐な花を付けていました。城山では4月中旬からGW頃までがこれらの花の見頃となります。

また、雪解けにより水量の増えるこの時期、城山のシンボル権現滝は（梅雨や台風を除けば）1年でもっとも水量が多く、迫力のある姿を楽しむことができます。周囲が新緑で彩られるとより一層見栄えが良くなるため、この時期を狙って地元のアマチュアカメラマンも多く訪れます。

秋から冬の間は訪れる人も少ないため意外と動物たちの活動も活発で、春先に山に入るとその痕跡を見ることができます。写真はクマが木によじ登った跡ではないかと考えられます。その他にもカモシカやイノシシの活動の跡も随所に見られ、市街地に近い場所とはとても思えない賑やかさでした。

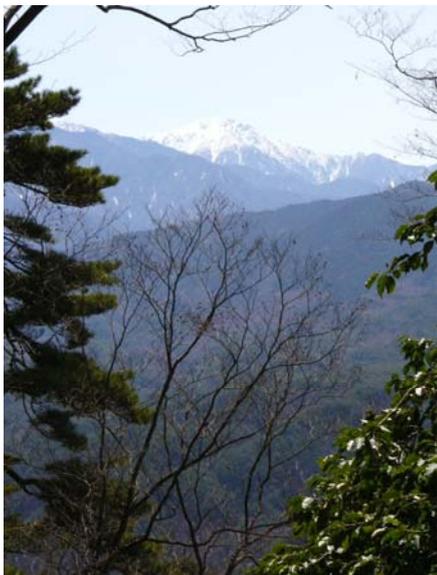
当センターでも城山史跡の森倶楽部に協力してインストラクターを努めることもあります。このような城山の自然の魅力を、参加者にできるだけ分かりやすく伝えていきたいと思えます。



標高の高い尾根沿いに見られるバイカオウレン



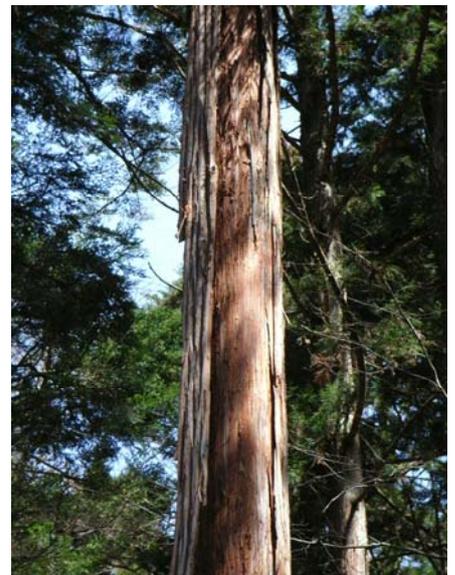
4月中旬に咲き始めたニッコウネコノメソウ



城山から見た中央アルプス



水量豊かな権現滝



クマの皮剥と思われる跡